

脳神経外科の診療上の特徴は患者の生命、人格、高次精神機能の障害に直結していることである。

I. 一般目標

脳神経外科医として脳神経外科疾患を持つ患者を適切に治療するために、必要な脳神経外科学の基本的な知識・技能・態度を習得し、実施できる。

II. 担当する診療科

脳神経外科

III. 研修期間

1ヶ月以上

IV. 指導スタッフ

	氏名	職名・担当	医師登録年月	指導医講習
指導責任者	黒田 英一	脳神経外科部長	1979.6	

V. 基本的な指導方法

1. 指導責任者とともに脳神経外科の入院患者を受け持ち、診療にあたる。
2. 指導責任者のもとに基本的検査、手術患者の周術期管理を行う。
3. 指導責任者とともに手術スタッフに加わる。
4. 指導責任者とともに日直業務を行う。

VI. 基本的週間スケジュール

	8	9	10	1	12	13	14	15	16	17
月			病棟・外来診察					手術		
火			病棟・外来診察					手術		
水			病棟・外来診察					手術		
木			病棟・外来診察					手術		
金			病棟・外来診察					手術		
土			病棟・外来診察							

VII. 行動目標（→p12）

## VIII. 経験目標 (→ p13~20)

### A. 経験すべき診察法・検査・手技

- (1) 医療面接：患者・家族との信頼関係を構築し、診断治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、
  - ・医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解できる。
  - ・病歴の聴取と記録ができる。
  - ・患者・家族への適切な指示、指導ができる。
- (2) 基本的な身体診察法：病態の把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記録するために、
  - ・全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握を含む）ができ、記録できる。
  - ・頭頸部の診察ができ、記録できる。
  - ・神経学的診察ができ、記録できる。
- (3) 基本的な臨床検査：病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体観察から得られた情報をもとに必要な検査を解釈するために、以下の検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる（下線は必ず経験すること）。

髄液検査、X線CT検査、MRI検査、  
神経生理学的検査（脳波を含む）

- (4) 基本的治療法：基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、

- ・療養指導（安静度・体位・食事・入浴・排泄・環境整備を含む）ができる。
- ・薬剤の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療ができる。
- ・基本的な輸液療法ができる

- (5) 医療記録：チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、
  - ・診療録をPOSに従って記載し、管理できる。
  - ・処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
  - ・診断書、死亡診断書、死体検案書他の書類を作成し、管理できる。
  - ・紹介状・紹介返書を作成でき、管理できる。
- (6) 診療計画：保険・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診断書を作成し、評価するために、
  - ・診療計画（診断・治療・患者家族への説明を含む）を作成できる。
  - ・診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。
  - ・入退院の適応を判断できる。
  - ・QOLを考慮にいれた統合的な管理計画へ参画できる。

### B. 経験すべき症状・病態・疾患 (→ p16~18の一覧表参照)

患者の呈する症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を行う能力を獲得するために、

1. 頻度の高い以下の症状を経験し、鑑別できる。
  - 頭痛、めまい、失神、痙攣発作、視力障害・視野欠損、嘔気・嘔吐、四肢のしびれ
2. 緊急を要する以下の症状・病態を経験し、初期治療に参加できる。
  - 意識障害、脳血管障害
3. 経験が求められる疾患・病態
  - 脳・脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）、
  - 脳・脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外出血、硬膜下出血）



64列MDCT